

下半期の実証（導入機器）について

1 実証機器決定までの経緯

- (1) 3施設において、8月29日から9月1日の間に作業分析結果の報告を行い、それぞれの施設における身体的・時間的負担の大きい作業や不良姿勢を強いられる作業等、介護作業を見える化し関係者で共有した。
- (2) その後、作業分析結果を基に各施設で負担軽減を図りたい作業を検討していただき、その意見を踏まえて、候補となる機器を提案した。
- (3) その間、市・FAISとの意見交換を2回実施するとともに、各施設職員が調達可能な機器の試用や上半期の導入施設に視察を行うなど、検討を重ねた。
- (4) 最終的に、各施設の対象者や居室のスペース等も考慮した上で10月2日に導入機器を決定した。

2 実証機器選定の考え方

(1) 軽減したい作業の抽出

- ・各施設において、負担軽減したい作業を抽出し優先順位をつけた。

施設 優先順位	足原のぞみ苑	聖ヨゼフの苑	杜の家
1	トイレ介助	記録	移乗介助
2	移乗介助	トイレ介助（立位保持）	記録
3	見守り	移乗介助	コミュニケーション
4	記録	見守り	—

(2) 着眼点（各施設と共有）

- ・非装着型の機器は、身体的負担（OWAS）は軽減するが操作等に時間がかかる。

↓

- ・時間の短縮化が必要である。

↓

- ・記録や見守り、コミュニケーション機器導入による時間短縮を図る。

(3) 機器導入にあたっての留意点（各施設への依頼事項）

- ・時間がかかる作業の間に入所者との会話などの付加価値をつける。
- ・時間短縮を図るため、出来るだけ既存の記録システムを使わず、実証機器のみを使う。